

おほつのみこ ひそ  
大津皇子、竊かに伊勢の神宮に下りて上り来

おほくのひめみこ  
る時に、大伯皇女の作らす歌二首

一〇五番

わが背子を 大和へ遣ると さ夜ふけて

あかとぎつゆ  
暁露

に 我が立ち濡れし

一〇六番

ふたりゆ 二人行けど 行き過ぎかたき 秋山を いかにか

きみ 君が ひとり越ゆらむ

おほつのみこ いしかはのいらつめ おく  
大津皇子、石川郎女に贈る御歌一首

一〇七番

あしひきの 山のしづくに 妹待つと 我立ち濡

れぬ 山のしづくに

いしかはのいらつめ こと まつ  
石川郎女の和へ奉る歌一首

一〇八番

あを待つと 君が濡れけむ あしひきの 山のし

づくに ならましものを